

02 子どもの心に響く褒め方と叱り方のコツ

担任経験2年目・女性

毎日、授業準備等に追われ
あたふたしていますが、それでも校
長先生に褒められると、「よし、頑張
ろう!」と思います。子どもたちも、
できないことを指摘するより頑張
っているところを褒める方がやる
気になると思います。褒め上手に
なるコツはありますか。



A プラス(肯定) 評価の言葉を
子どもの心に響かせ、「前向き」の
原動力を引き出そう!

「人は褒めて伸ばす」「得意を伸ばすことでマイナス面も解消する」という考え方を基本とし、子どものニーズに合った内容や場面・タイミングを見計らって、心に届く褒め言葉をかけるスキルを高める。

戦略の構造!

褒めることの教育的意義

- 子どもは自分の取るべき行動を判断して自己決定できる力を備えている。
- 褒めることはそれを認め、その力を引き出す最適なアプローチである。

褒め上手な担任



マイナス面でも、褒める言葉
掛けのチャンスはないかと
常にアンテナを張っている。



その子に合った褒め言葉を多
様にもっていて、適切にタイミ
ングよく声をかけている。



上記のような子ども観にもと
づく指導スキルを身に付ける
不断の努力をしている。

叱ることが指導に多い担任



担任の都合に合わない言
動を許せない。



担任と子どもが上下関係
にあり、叱ることで子ども
は動くと思っている。



経験則に頼り、時代の変化
に伴って多様化する子ど
もの心理に対応できない。

この先生に出会ったことで、自分のよさや可能性が
引き出されていると、子ども自身が実感する。

仕掛けのポイント

💡「褒め言葉」のもつ力が自己教育力を伸ばす

「褒め言葉」=「プラス肯定評価」は、担任の豊かな人間性や感性から親愛の情として生まれてくる。それ故に子どもの心に響き、喜びとして受け止められるのである。褒め言葉を実感する子どもは、自分のよさや可能性に気づき、それを伸ばそうとする自己教育力を高める。個々や集団の雰囲気がこのような状況になれば、自ずと認め合い、高め合う学級集団が形成されていく。一つの経験が次の質の高い経験の元になる。

💡叱ることでの統制は、管理教育そのもの

管理が必要なのは物理的な安全性の担保と、心情面では人権侵害に当たる行為に限られていると考えたい。話の聞き方が悪いというのは、話を聞かせられない指導者側のスキルの低さととらえたい。しかし、叱るタイミングや叱り言葉の使い方が上手な担任は、子どもの心をとらえることが上手で、「この先生に叱られたのだから正さなくては……。」と心に届くのである。子どもを叱るのに、決して大きな声は必要ないのである。

「褒め上手になる7つのポイント」を押さえ、スキルアップしよう!

1 「褒めることはないか」とアンテナを張っていて、ささいなことでも積極的に褒める。

プラス評価ができない教員の体質

- ① 子どもを比較し、序列をつけて、「あの子はだめだ。」と固定的な見方をしがち。
- ② 要求水準が子どもの実態に合っておらず、「この程度もできない。」というように見がち。
- ③ 褒められた喜びを自ら感じにくい。

2 実際の場面を取り上げ、事実を具体的に、その価値を含めて褒める。



係、当番活動や苦手なことにチャレンジしている。行動への取り組みで頑張っているなど、ナイスなところはないかな。

先生はいつもみんなのことを褒めてくれる。次は何と言って褒められるのかワクワクする。



3 学校行事の目標は何か。発達段階に応じてめざす「子どもの姿」を示しながら確認する。



川本さんと北村さんは、転んだ2年生を保健室に連れて行ってあげたんだね。担任の先生から聞きました。高学年としての優しさが素晴らしい!

「すごい」「りっぱ」などの抽象的な言葉だけでは心に響かない。具体的にポイントを提示して!

4 結果や成果だけではなく、その過程や努力もキャッチして褒める。

川上さんの朗読は、上手だね。毎日、朝学習で集中して練習していたのと、休み時間に友達と聞き合う練習をしていた成果ですね。

成果に至る背景を掴むための普段のチェックが大切!



5 TPO(Time, Place, Occasion)、つまり時間と場所、場面の状況に応じて、効果的に褒める。

全員の前で即時的に褒める。



● 価値の共有で効果がある。

● 受け取り方が難しい。
● やっかみになる。

個別にしみり褒める。

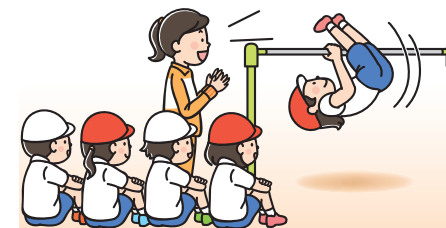
君、よく頑張ったね。いつの間になつたのか、驚いたよ。どこで練習していたの?



そうなんです。実は友達と……。

● 関係性がぐっと縮まる。

6 スポットライトを当てて、焦点化して褒める。



目立たない責任感や改善、貢献などを意欲的に取り上げて、明るく感動的に褒める!

7 褒め言葉とともに、全身表現を効果的に使う。

スマイリング(Smiling)

微笑など表情豊かな語りかけは子どもに親しみと満足感を与える。

褒め言葉

シンセリティ(Sincerity)
感性から湧き出る思いを誠実に全身で伝える。

ジェスチャー(Gesture)
サインやスキンシップによる喜びの演出をする。